

美術館だより

Contents

- 1 企画展「速水御舟展」(近代美術館)
- 2 企画展紹介「速水御舟展」(近代美術館)
- 3 企画展紹介「旅するチバラキ ～連作《水郷めぐり》の全貌～」(五浦美術館)
- 4 事業レポート(近代美術館)
- 5 事業レポート(五浦美術館)
- 6 事業レポート(つくば美術館)
分館長コラム(五浦美術館)
- 7 企業パートナーシップ事業(近代美術館)
- 8 インフォメーション

No.124

Jan 6, 2023

茨城県近代美術館
「速水御舟展」より

速水御舟《鍋島の皿に柘榴》1921(大正10)年

速水御舟(1894-1935)は明治末期から昭和初期にかけて活躍した日本画家です。早熟で早くから才能を発揮した御舟は、長いとはいえないがたいその画家生活において、常に己の目指す表現を突き詰め、極めて完成度の高い作品を生み出し続けました。初期の写生に基づく表現と情趣が調和する画風を経て、大正期の御舟は写実的な細密描写を極めていきます。この写実表現への傾倒は、北方ルネサンスの影響を受けて細密画を試みた洋画家・岸田劉生(1891-1929)に触発されたともいわれます。1920(大正9)年頃には、主に金地の抽象

的な空間に果物や陶磁器を配した静物画を何点も手がけて、日本画の画材によっていかに対象の質感を再現し、その実在感を表現するかを追究しています。画面中央に色鍋島の皿に置かれた柘榴を描いた本作では、御舟の精緻な描写は、果皮の光沢や模様といった柘榴の表面を克明に表すだけでなく、その下の深紅色の弾けるような果肉の存在や、果実の重さまでも想像させます。徹底した写実を追究した末に現前する対象の静謐な存在感と、モチーフがまとう気品が強い印象を残す一作です。

[近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]

企画展紹介 速水御舟展

茨城県
近代美術館

会 期：2023(令和5)年2月21日(火)～3月26日(日)

※会期中、一部作品の展示替を行います。

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 室 日：3月13日(月)※所蔵作品展示室のみ開室します。

入 場 料：一般1,100(1,000)円／満70歳以上550(500)円／
高大生870(730)円／小中生490(370)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方は無料

※春休み期間を除く土曜日は高校生以下は無料

※3月11日(土)は満70歳以上の方は入場無料

主 催：茨城県近代美術館／日本経済新聞社

後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／

産経新聞水戸支局／東京新聞水戸支局／

毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局

協 賛：株式会社常陽銀行

助 成：芸術文化振興基金

特別協力：東京国立近代美術館／

凸版印刷株式会社 トッパン日本画家アートアーカイブ

◆本展はパートナー企業からの支援を受けています。



芸術文化振興基金助成事業

WEB予約をおすすめします

当館HPより「日時指定WEB整理券」(無料)を取得された方が優先入場となります。来館日の1カ月前より予約可能です。

詳細は当館HPをご覧ください。

展覧会の概要

日本画家・速水御舟(1894-1935)が活躍したのは、明治の末期から昭和初期にかけて、日本が近代化を進める中で、美術の世界、とりわけ日本画が大きな変化を強いられた時代です。その渦中において、わずか30年ほどの活動を通じ、御舟はその後の近代日本画の展開に強い影響を与え、その方向性を決定づける仕事を多く遺しました。

古画の模写、写生に基づく叙情的な作品、大正期の精緻を極めた写実描写、そして古典的な絵画への回帰、単純化と平面性を伴う画風へと変化するその作品には、一人の画家とは思えないほどの多彩な表現が見られます。ただ、そこには対象の真実に肉薄しようとした、御舟の一貫した姿勢を見ることができます。それは近代という時代に西洋と対峙する中で、日本画が直面せざるをえなかった様々な問題に真摯に向き合った結果ともいえます。

この展覧会では本画約100点と素描により、型にはまるとを嫌い、振幅の激しい画業を通して描くことの意味を問い続けた、御舟の画家としての道筋をあらためて振り返ります。

みどころ

速水御舟の近代美術史における評価は極めて高いにもかかわらず、御舟の大規模な個展が地方で開かれることは稀でした。近年では、2008年に平塚市美術館で開催された速水御舟展が最後になります。本展は、御舟の初期から晩年までの代表作を集めた久しぶりの大回顧展となります。明治、大正から昭和にかけて、40年という短い生涯を駆け抜けた御舟は、自らの表現に満足することなく、研究を重ねて求道的ともいべき制作態度を貫きました。「梯子の頂上に登る勇氣は貴い、更にそこから降りて来て、再び登り返す勇氣を持つ者は更に貴い」という自身の言葉の通り、ある表現を極めてそこに安住することなく、さらに新たな挑戦を続けて「孤高」ともいべき画境に至った画家・速水御舟の画業を余すところなくご覧いただく貴重な機会となります。

対象をくまなく見つめて、一部の隙もなく描き尽くした大正期の静物画の数々は、珠玉の小宇宙と呼ぶべき一群です。昭和期に入って人物画に意欲を燃やした御舟は、《花ノ傍》においてはその近代的な感性を最大限に発揮し、色面や空間の構成に工夫を凝らして極めてモダンな女性像を提示しました。そして、折にふれて描かれた花卉画や花鳥画も見逃せず、色彩豊かで計算され尽くされた描写の冴えや、墨やたらし込みを駆使した濃淡自在の表現の妙もそれぞれ大きな見どころです。御舟の研ぎ澄まされた筆が織りなす、馥郁たる花々や豊かな表情を見せる動物たちの芳醇な世界をどうぞご堪能ください。

[茨城県近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]



《洛北修学院村》1918(大正7)年
滋賀県立美術館



《椿花妍彩》1926(大正15)年
個人蔵(フジカワ画廊協力)



《菊花図》1921(大正10)年



《菊に猫》
1922(大正11)年
豊田市美術館



《花ノ傍》1932(昭和7)年
株式会社歌舞伎座

企画展紹介 旅するチバラキ ～連作《水郷めぐり》の全貌～

会 期：2023(令和5)年2月10日(金)～4月23日(日)
 ※会期中、一部作品の展示替を行います。
 前期=3月19日(日)まで、後期=3月21日(火・祝)から
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日
 入 場 料：一般320(260)円／満70歳以上160(130)円／
 高大生210(150)円／小中生150(100)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料
 ※3月25日、4月1日を除く土曜日は高校生以下無料
 ※2月11日(土)は満70歳以上の方は無料
 主 催：茨城県天心記念五浦美術館

展覧会の概要

大正6年(1917)に四人の日本画家、飛田周山^{ひだしゅうざん}(1877-1945)、水上泰生^{みづのかみ たいせい}(1877-1951)、山内多門^{やまうち やまのり}(1878-1932)、勝田蕉琴^{しょうこん}(1879-1963)によって描かれた連作《水郷めぐり》は、利根川流域から茨城県南部の旅行をもとに生まれた作品です。画家たちは道中各所で写生し、それぞれの風景を、幅六尺(およそ180cm)前後の横長の作品に仕上げました。全体が水郷の湿潤な空気を伝えるような、墨の描写を主とした文人画調の連作となっています。

一連の作品は旅を共にした小池北風(素康)の紀行文に沿ってまとめられ、書籍『水郷めぐり』(大正7年、美術研精會)に掲載出版されました。さらにこの2年後には、前述の四作家に加えて野田九浦^{せうこう}(1879-1971)らが参加し、小田原、熱海周辺の旅行記《半嶋めぐり》が作品化されています。

本展覧会では、連作《水郷めぐり》を一堂に公開すると同時に、現地での写生と考えられる作品や、書籍にカットとして添えられた小品をまとめた《水郷めぐり繪巻》《半嶋めぐり繪巻》も紹介します。

詩情豊かに描かれた100年前の水郷風景をお楽しみください。

みどころ

展示室には大正時代の水郷風景が並びます。佐原、潮来、鹿島など現在も知られる観光地のほか、浮島、牛堀、真鍋といった霞ヶ浦、北浦周辺の茨城県南各地が描かれています。水墨を基調に描かれた、およそ100年前の茨城の様子を、興味深くご覧いただけることと思います。

本展覧会は現在、所在が確認できる《水郷めぐり》31図(個人蔵)を一堂に公開する貴重な機会となります。これらを描いた四人は、文部省主催の文展、帝展などで活躍した実力派の画家達です。日本画ファンの方には、改めてその確かな筆遣いを味わっていただける展覧会となります。

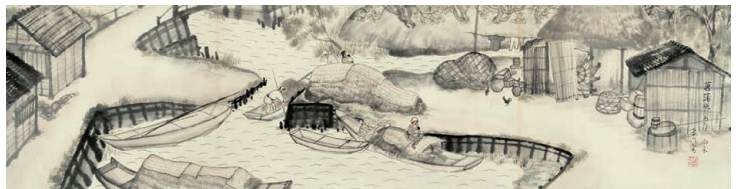
[天心記念五浦美術館 首席学芸員 井野功一]



飛田周山 《嵐光水色 牛堀》 1917(大正6)年 個人蔵



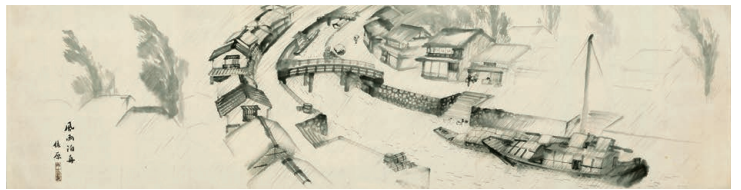
勝田蕉琴 《筑波遠望》 1917(大正6)年 個人蔵



山内多門 《菖蒲咲くあたり 潮来》 1917(大正6)年 個人蔵



水上泰生 《新緑入江 十六島》 1917(大正6)年 個人蔵



飛田周山 《風雨泊舟 佐原》 1917(大正6)年 個人蔵



山内多門 《北浦乃薪山 鉾田》 1917(大正6)年 個人蔵



水上泰生 《遠帆遠水 浮島》 1917(大正6)年 個人蔵

茨城県近代美術館

どっちがどっち? いわいとしお×岩井俊雄 —『100かいだてのいえ』とメディアアートの世界—

子どもたちに大人気の絵本作家・いわいとしお。メディアアートの第一人者・岩井俊雄。2つの人格を有するかに思われるいわいとしお×岩井俊雄の作品世界の魅力と、その発想の源を探る展覧会を、7月2日(土)から9月19日(月・祝)まで、夏休み期間を含む69日間の長期にわたり開催しました。約28,000人ももの来観者をお迎えして盛況裡に閉幕した展覧会について報告します。

体感する展示—子どもも大人も、驚き、楽しむ。

いわいとしおの代表作である絵本『100かいだてのいえ』(偕成社、2008年)。その世界を再現したディスプレイを抜けて展示室に入ると、絵本の原画が待っています。細かく描き込まれた絵の魅力を味わっていただくために、絵の内容にちなんだクイズも用意しました。



展示会場へのアプローチ



100かいだてのいえクイズ

続くコーナーでは絵本制作の裏側に迫りました。ページをめくる方向やテキストの入れ方など、作者が試行錯誤を重ねたことで、絵本というメディアの特性を生かした、この絵本が誕生したのです。

一方、最初期のメディアアート作品として紹介したのが、大学の授業課題から生まれた《驚き盤》です。手に持った円盤を鏡に向けて勢いよく回転させると、連続した絵がアニメーションになって鏡に映ります。ハンドルを回すと人形がアニメーションに見える《立体ゾートロープ》(1988年)はその三次元バージョン。目の前で絵や立体が動き出す驚きに子どもはもちろん大人も大興奮で、その不思議



ページのめくり方を試すコーナー



《驚き盤》の展示コーナー

議の理由を確かめるかのように何度も体験していました。

さらに代表作《映像装置としてのピアノ》(1995/2022年)は、コントローラーを操作するとピアノから音と光が飛び出す作品です。20数年ぶりの再現展示となりましたが、当時よりも格段にメディアが発達した今日においても色あせることなく人々を魅了しました。



《立体ゾートロープ》の展示



《映像装置としてのピアノ》の展示

生涯の紹介—絵本とメディアアートをつなぐもの

一見相反するかに思える絵本とメディアアートの世界をつなぐものは何か。その謎を解くカギは作者自身にありました。小学校の頃に描いたパラパラマンガ、中学・高校時代に描いたイラストやマンガ…。それら子ども時代の作品は、既成のジャンルに囚われず様々なメディアを用いて作品を発表してきた作者の歩みを裏付けました。なぜならそこにはアニメーションへの関心、自身が楽しむことを基点とした人を楽しませ驚かせることへの飽くなき欲求、物事の本質を見極めることで人々に新たな体験を誘う作品など、現在に通じる要素がいくつも現れていたからです。これらの展示は観賞者の子供時代の記憶を蘇らせ、反響を呼びました。



中学時代の作品展示 描きかけのマンガやイラストなど

展覧会を終えて

本展は、誰もが不自由なく楽しめるよう展示についても作者自身が細かく気を配りました。大勢の人が会しても混乱がなかった《驚き盤》のコーナーは最たるものであり、鏡やライトの仕様や位置関係、鑑賞者の動きを何度も実験して最善策が導き出されました。

本展をとおして、つくることの喜びに改めて気づかせてくれた作者、そして感動を惜しみなく伝えてくださった来観者の皆様にご心より御礼申し上げます。



作品で埋めつくされたワークショップエリア

*本展記録集を作成中です。詳細は当館HPをご覧ください。

[近代美術館 首席学芸員 吉田衣里]

茨城県天心記念五浦美術館

茨城県天心記念五浦美術館が開館25周年を迎えました

茨城県天心記念五浦美術館は平成9年11月8日、茨城県近代美術館のつくば分館に次ぐ、2つ目の分館として開館、今年開館25周年を迎えました。

その開館25周年記念展として開催した「再興院展の立役者 齋藤隆三」展は、令和元年夏の空調設備不具合による企画展の休止、再開後はコロナ禍と重なったことで、実に3年ぶりに開会式・テープカットを行う展覧会となりました。齋藤隆三の遺族彰男氏をはじめ、多くの関係者ご臨席のもと、当館の開館25周年を祝っていただきました。展覧会の内容は前号に掲載されているのでここでは省きますが、齋藤隆三を軸に日本美術院の歴史、ひいては近代日本美術史をとらえ直すきっかけになったと自負しています。



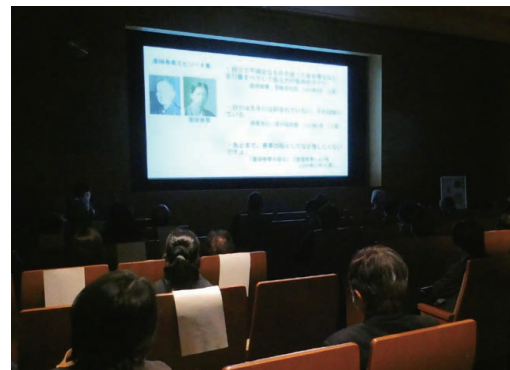
挨拶する齋藤彰男氏



テープカットの様子

さて、この展覧会は記念展であり、関連イベントも充実させようと準備を進めました。その一つが外部講師を招いた講演会の開催です。10月30日に東京国立近代美術館の主任研究員として菱田春草展や横山大観展を手がけた鶴見香織氏を講師に迎え、大観、春草と齋藤との交友についての話をいただきました。講演では、春草晩年の制作に関する齋藤の評伝の解釈が近年の研究の進展によって変わってきたという最新の説が紹介されるなど、専門的な内容を分かりやすく解説いただき、参加者からは勉強になったとの声を頂戴しました。

ついで、11月3日と4日の2日間、齋藤隆三の孫にあたる日本画家・斎藤竜太氏を講師に迎え、日本画実技講座を開催しました。竜太氏は日本美術院院友として活躍しており、天心や大観に留まらず、祖父である隆三の想いも引き継いで制作に邁進している日本画家です。



講演会の様子

その竜太氏の指導の下、金の色紙(金箋紙)にリンゴとレモンを描く講座でしたが、参加者一人一人の間を巡っては要所要所で助言いただき、おかげで果物の立体感や質感まで表現された素敵な作品が仕上がりました。参加者も最後まで笑顔だったのが印象的でした。



斎藤竜太氏による指導の様子

さらに、開館記念日である11月8日から展覧会最終日の27日まで「肉案」ポーズでSNSを開催しました。《肉案》は横山大観が絶賛した小川芋銭の作品で、禅問答をテーマに、肉屋の前で悟りを開くことができた盤山和尚が猪の頭を手にした姿を描いています。この作品を図柄とした展示室入口看板の前に猪の首のパネルを用意、和尚と同じポーズで写真撮影してSNSにアップされたお客様、毎日先着10名様にオリジナル・クリアファイルをプレゼントしました。当初開催の予定はなかったものの、開館25周年を来館者も参加して祝ってもらえないだろうか職員雑談から生まれたイベントです。



当館若手が「肉案」ポーズでパシャリ

このように、多彩なイベントと多くの来館者で賑わった開館25周年記念展でしたが、次の四半世紀に向け当館はすでにスタートを切っています。これからも、「天心記念五浦美術館らしい展覧会だね」、「参加したくなるイベントだね」と仰っていただけるような企画を打ち出して参りますので、よろしくお願いたします。

茨城県つくば美術館

美術講演会「渋沢栄一を描いた画家石橋和訓」

昨年11月20日〔土〕、「渋沢栄一を描いた画家石橋和訓—二人の交流を通してみる明治期の政財界と美術—」という演題で、筑波大学芸術系准教授、林みちこ氏をお迎えして美術講演会を開催しました。

この講演会は、明治期にイギリスのロイヤル・アカデミーに留学した島根県出身の洋画家石橋和訓と、支援者であり肖像画の顧客でもあった実業家渋沢栄一との交流を通して、20世紀初頭の画壇と政財界との繋がり、美術における「男性同盟」形成の背景を考えるものでした。

当日は、林氏が長年研究してきた石橋が、渋沢や明治の元勳・松方正義氏といった数多くの政財界の大物の肖像画を描いたこと、第1次世界大戦で祖国を追われたベルギー人芸術家支援のためチャリティー展覧会を手伝うなど社会貢献してきたこと等を紹介したほか、渋沢と同じく女子教育に関心を持っていたことを、スライドを使って、丁寧に説明していただきました。

この講演会には、石橋の絵を所蔵している島根県立美術館の学芸員の方をはじめ、42名の参加者があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。参加者からは、「石橋和訓を知らなかったが、渋沢栄一や茨城とも関連が非常に深いことを細かく知ることができて満足でした。」「石橋和訓という一人の画家について学生時代から詳しく調べられていて自ら足を運んで裏付けも取っていたので、話に迫力があつた。」「文献資料から情報を集め、石橋の画業の全貌が明らかになっていく過程が興味深かった。」「渋沢との共通点を見ると、女子教育への熱意があつたり、国際結婚をしていたり、時代を象徴する人物であることが分かり、興味深かった。」などの感想もあり、大好評のうちに終了しました。

今回の講演により、少しでも多くの参加者が、石橋和訓、さらには美術史等への興味関心を高めるきっかけになっていただけたなら幸いです。



講師：筑波大学芸術系准教授 林みちこ氏

五浦分館長 小泉淳一

音楽フェスで感じたこと—多様性の時代

5月のこと、「水曜日のカンパネラ」というポップスユニットの曲が気に入ってよく聴くようになったのだが、今どきの音楽にはまるなんてもう20年ぶり。すると、今までひたち海浜公園で開催されてきたロックフェスが千葉県に移ったことから、「茨城のフェス文化の灯を消すな!」とのかけ声とともに、LuckyFM茨城放送が新しいフェスを開催するという。そこに、件のユニットも参加するとのこと。音楽フェスなどまるで縁遠かった私としても、これは是非参加しなければと思い、チケットを手に入れた。

当日、ほとんど知らないバンドやボーカルばかりだったが、それぞれの楽曲は激しく、快活に演じられて、私にとっても意外に心地よかった。もちろん、お目当ての二代目ボーカル詩羽(うたは)嬢もいかにも楽しくてたまらないという歌声を披露してくれて、ファンの一人として気分上々の一日。

ところで、こういった音楽フェスは、この国中で開催されていて、自身のツアーと合わせて彼女も全国を飛びまわっている。それはSNSで発信され、ファンはみな把握している。そしてたぶんフェスに参加した他のミュージシャンたちも同じことだろう。知名度の差は色々あるだろうが、それで彼らの商売は成り立っている。

ここで、少し疑問がよぎってくる。このユニットはメジャーなのか。つまり、私が聴くようになる前の初代ボーカル時代にも結構ヒット曲があったらしいのに、私はその名前さえ知らなかった。このとき突然、これが「多様性」の真の意味なのだと思います。高度成長期を通過してきた我々世代が思い描く本当のメジャー、例えば「およげ!たいやきくん」とはまるで違う。そんなことは今ではたぶん夢の国の出来事なのだろう。

こういったことは、当然美術の分野でも言えることで、いろんなレベルで「バズって」いるアーティストはいるに違いない。我々学芸員はそれらをすべて把握しているのだろうか。専門分野でもあり、情報に対するアンテナは当然鋭敏だろうから、ある程度はカバーできていると思うが、ネット空間もあり、心もとない気もする。どちらにしろ、美術館で行う展覧会も、これまでのように誰もが知るメジャーな内容だけではきつもの足りないのではないだろうか。「多様」な活動に対応する「多様」な視点が必要になるはずである。美術館という機関のあり方も、おそらく今、曲がり角に来ているに違いないと、軽快な音楽を聴きながら思い悩む自分がたたずんでいた。

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

先号に引き続き、プラチナパートナー企業のCSRやメセナ活動をご紹介します。

株式会社アダストリア

「ファッションのワクワクを、未来まで。」をサステナビリティポリシーとして掲げ、重点テーマの一つに「地域と成長する」を定めています。ファッション企業らしく、地域のお客さまや従業員とともに新しい価値を楽しく創造する活動を行っています。



Play Cycle! 衣料品回収ブース

「Play Cycle!」衣料品を回収し新しい資源に再生

衣料品回収プログラム「Play Cycle!」を通じて、お客さまや地域のみなさまと一緒に資源の循環に取り組んでいます。店頭回収ボックスや全国の商業施設での回収イベントにて、これまで累計約18万着の衣料品を回収してきました。回収した衣料品は、再生ポリエステルや自動車の内装材などの新しい資源にリサイクルされるほか、子ども服の一部は、茨城町にある「OFF STORE」にてリユース品として再活用されます。



アダストリアみとアリーナ

ファッションの力でスポーツをもっと楽しく

プロバスケットボールリーグB.LEAGUE所属「茨城ロボッツ」のメインスポンサーを務め、コラボグッズの販売や、3rdユニフォームのデザインを手掛けるなどファッション企業ならではの取り組みでチームを応援しています。茨城ロボッツのホームスタジアムでもある水戸市の東町運動公園体育館は、地元のみなさまがスポーツを楽しむ場として「アダストリアみとアリーナ」の愛称で親しまれています。

ザ・ヒロサワ・シティ



寺内タケシ記念館



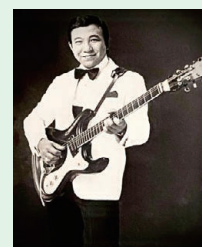
ザ・ヒロサワ・シティ

「自然」と「健康」と「文化」をテーマとした郷(まち)ザ・ヒロサワ・シティ。110ヘクタールの敷地には下館ゴルフ倶楽部を中心として、12の美術館・博物館、科博廣澤航空博物館を含む陸・海・空・宇宙の乗物を展示し、来春一般公開を目指している「ユメノバ」、ミニシアターなど、またパークゴルフ場、マラソンコース、オフロードコース、アメリカのルート66を再現したザ・マザーロード・パークの他、専門学校、認定こども園、宿泊施設、BBQ場、農園、ドッグラン、レストランなどがあります。

そのザ・ヒロサワ・シティに令和4年10月30日「エレキの神様寺内タケシ記念館」が完成オープンしました。茨城県出身の寺内タケシ氏は、独自の創造力、発信力で日本はもとより、海外でも愛されたエレキギターの第一人者です。ご遺族の思い、後援会の皆様の思い、そして関係者の方々の思いが形になりました。

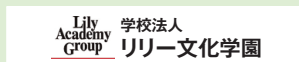
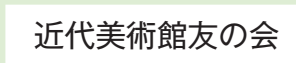
ザ・ヒロサワ・シティでは、貴重な遺品や資料、思い出の品や写真などの散逸を防ぎ、またファンの皆様が集い、多くの方々がその業績に触れることができるよう、建物を提供し運営を支援しております。

入館料無料。第二・第四土曜日 11:00-16:00開館。
完全予約制。対応窓口は(株)ケーエムミュージック
info@kmmusic.co.jp Tel.045-201-9999
平日11:00-13:00 15:00-17:00



寺内タケシ氏

パートナー企業の皆様



INFORMATION

MOMA
IBARAKI

1月～3月のご案内

茨城県近代美術館

《企画展・関連イベント》

《戦後日本版画の展開

—照沼コレクションを中心に—

12月24日[土]～2023年2月5日[日]

・講演会+実演「版で描くように摺る
—清宮眞文の木版画技法の秘密に迫る」
講師：佐野広章氏（桐生大学短期大学部准教授）
期日：1月21日[土] 午後2時～3時30分
会場：地階講堂
定員：100名（要事前申込、参加無料）

・学芸員による鑑賞講座「戦後日本版画の展開」

講師：永宮勤士（本展担当学芸員）
期日：1月15日[日] 午後2時～3時30分
会場：地階講堂
定員：100名（要事前申込、参加無料）

《速水御舟展》

2月21日[火]～3月26日[日]

・講演会「速水御舟（埃及風俗図巻）の修復について」
講師：半田昌規氏（東洋絵画修復家、半田九清堂代表取締役）
期日：3月5日[日] 午後2時～3時30分
会場：地階講堂
定員：250名（要事前申込、参加無料）

・講演会「速水御舟、その生涯と芸術」

講師：尾崎正明（茨城県近代美術館 館長）
期日：2月26日[日] 午後2時～3時30分
会場：地階講堂
定員：250名（要事前申込、参加無料）

《所蔵作品展 第1展示室》

《日本の近代美術と茨城の作家たち 冬から春へ 後期》

2月15日[水]～4月9日[日]

《所蔵作品展 第2展示室》

《木村武山 彩色杉戸絵》

2月15日[水]～4月9日[日]

《アートフォーラム展示》

《日本美術院の画家たち》

1月31日[火]～4月9日[日]

《その他のイベント》

・家族でわくわくミュージアム
期日：2月10日[金] 乳児+大人（保護者）
2月15日[水] 乳児+大人（保護者）
2月18日[土] 幼児+大人（保護者）
2月25日[土] 小学生+大人（保護者）

・高校生特派員美術展覧会
期日：1月25日[水]～2月2日[木]
会場：水戸OPA 5階アートシティーホール

茨城県つくば美術館

《土曜講座》

時間：各日午後1時30分～
会場：2階アルスホール
料金：無料

1月14日[土]
・第9回「戦後日本版画の展開」
【講師】永宮 勤士（茨城県近代美術館主任学芸員）

2月11日[土・祝]
・第10回「カメラを手にした八木一夫」
【講師】花里 麻理（茨城県陶芸美術館学芸課長）

3月11日[土]
・第11回「速水御舟」
【講師】澤渡 麻里（茨城県近代美術館首席学芸員）

《貸ギャラリー展》

1月7日[土]～1月15日[日]
※1月10日[火]～12日[木]は休館
・第26回取手松陽高校美術科展【総合】

1月17日[火]～1月22日[日]
・第1展示室…第1回飯岡照子絵画展【絵画】
・第2展示室…ミシン工房糸ぐま 着物リメイク 母娘展
【着物リメイク】

1月24日[火]～1月29日[日]
・第31回つくば市文化協会芸術展【総合】

2月1日[水]～2月5日[日]
・第9回アール・パレ展 最優秀賞記念 中島茂夫展【絵画】

2月7日[火]～2月19日[日]
・令和4年度卒業制作展 筑波大学芸術専門学群卒業制作展【総合】

2月21日[火]～3月5日[日]
・令和4年度修了制作展 筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群芸術学学位プログラム（博士前期課程）修了制作展【総合】

3月7日[火]～3月12日[日]
・第22回チャレンジアートフェスティバルつくば【総合】

3月14日[火]～3月19日[日]
・筑波大学教授退職記念 内藤定壽絵画作品展【絵画】

3月21日[火・祝]～3月26日[日]
・第16回グリーン・リース展【絵画】

茨城県天心記念五浦美術館

《企画展・関連イベント》

《のぞいてみよう!!東京美術学校課題画展》
12月10日[土]～2023年2月5日[日]

・展覧会担当者による作品解説会
期日：1月15日[日] 13時30分～（約30分）
会場：講堂
定員：57名 ※当日整理券配布、要企画展チケット

・ワークショップ「課題画に挑戦!」
期日：1月21日[土]、22日[日] 10時～
会場：講座室
定員：各日10名 ※当日整理券配布、要企画展チケット

《旅するチバラキ～連作《水郷めぐり》の全貌～》
2月10日[金]～4月23日[日]

・講演会「近世以前の鹿島と香取の風景」
講師：郡政人（茨城県立歴史館学芸員）
期日：3月18日[土] 13時30分～（約90分）
会場：講堂

・展覧会担当者によるギャラリートーク
期日：2月26日[日]、3月21日[火・祝]
各日13時30分～（約30分）
会場：展示室 ※要企画展チケット

《その他のイベント》

・新春邦楽コンサート
出演：鈴木貴之（和太鼓）
期日：1月7日[土] 午前の部11時～、午後の部14時～
会場：エントランスロビー
定員：各回70名 ※要事前申込（先着順）、要企画展チケット

《映画会》

会場：講堂/定員：各日57名（要事前申込、先着順）/無料
時間：各日10時～
・1月8日[日] 「エルミターージュ幻想」96分
・2月12日[日] 「黄金狂時代」85分
・3月12日[日] 「コーラス」97分

《貸ギャラリー展》

・2月1日[水]～2月5日[日]
第31回茨城県小中学校美術展覧会
・2月11日[土・祝]～2月19日[日]
第38回茨城県美術文芸展覧会
・2月22日[水]～2月26日[日]
県北地区高等学校合同美術展
・3月1日[水]～3月12日[日]
令和4年度茨城県移動展覧会 茨城の美術セレクション

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止または延期となる場合があります。最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町椿2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中! 詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日來館の高校生以下の方(ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます) ○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校(県外含む)の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者 ○国際交流事業として国外から本県に留学している方 ○児童福祉施設、身体障害者更生援護施設、知的障害者援護施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方(1人につき付き添い1人まで) ○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

＜お知らせ＞

①「令和4年度茨城県芸術祭美術展覧会」が、10月1日(土)～16日(日)の期間に茨城県近代美術館及びザ・ヒロサワ・シティ会館で開催されました。延べ68名の友の会会員の皆様が来館し、作品を鑑賞いたしました。

友の会会員の皆様「友の会会員証」の提示により無料でご覧いただけるのは1回のみとなります。2回目以降は、団体料金(一般料金の1割引)をお支払いください。いずれも会員証の提示がない場合は一般料金となりますのでご了承ください。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金をお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。天心記念五浦美術館でお申し込みの場合は、入会申込書の提出と入会金のご入金を確認後、2週間以内に会員証をお届けいたします。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局(☎029-243-5111)または県天心記念五浦美術館(☎0293-46-5311)にお問い合わせください。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://www.fmoma.com>

